

# 平成30年度 学校自己評価システムシート ( 県立小川高等学校 定時制の課程)

目指す学校像	基礎学力を向上させ、豊かな心と自主的精神を育み、生きる力を伸ばす学校
--------	------------------------------------

重点目標	1 分かる授業に向けた授業改善と個に応じた学習指導により、基礎学力の向上を図る。 2 基本的な生活習慣の確立と個に応じた生徒指導・進路指導により、自立した自己の実現を図る。 3 開かれた学校として地域と連携し、学校行事と体験学習の充実により、豊かな心を育む。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 6 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<b>【現状】</b> 複雑な家庭環境等により、今まで学校生活に馴染めなかった生徒が多い。また特別な支援が必要な生徒、他校から転編入学している生徒も多く、学習意欲も決して高くない。 <b>【課題】</b> 生徒の学習意欲や学力を向上させること。生徒個々の状況に応じた支援が必要であること。	基礎学力の定着と、個々の状況に応じた学び方を確立させる。	①授業公開や職員研修会を実施することで、教科指導力の向上や、経験年数の長い教師から経験年数の短い教師へ指導技術を継承する機会とし、分かる授業に向けた授業改善を実施する。 ②総合的な学習の時間及び LHR を活用することで、基礎学力を定着させる。 ③始業前や長期休業中の学習指導や学期末の補習のような、個に応じた学習指導により基礎学力の向上を図る。 ④タブレットや支援教育プログラムを活用することで個に応じた学習指導を実施する。 ⑤特別支援教育巡回支援員や S S W からの情報を活用することで個別支援を充実させる。	①授業公開の実施と、職員研修会の実施。 ②4年間を通して「国語・計算・作文」の計画的な実施。 ③成績不振者の減少、 ④タブレット等の活用状況。 ⑤成績不振による中途退学者の減少。	生徒個々の学習状況に応じた支援をすることができた。 ①授業を互いに見合うことで、教科指導力の向上を図ることができた。 ②総合的な学習の時間を中心に計算と漢字について、生徒の状況に応じた学習が実施できた。 ③1学期の欠点数 30(25) 2学期の欠点数 30(25) 中途退学者数 1名(3) ④タブレットは活用することができなかったため、活用法については今後検討していく。	B	授業改善による教科指導力の向上は、校内での研修とともに、外部での研修も活用していく。 生徒が自らの課題を把握し課題解決のために取り組めるよう、指導していく。 各学期の欠点数だけでなく、欠点を取らせないための方策についても考えていく。
2	<b>【現状】</b> 多様な課題を抱えている生徒が多いが、学校では落ち着いた生活を送っている。 進路指導やキャリア教育を実施する上で、多様な課題を抱えている生徒が在籍している。 <b>【課題】</b> 進路実現のために一斉指導だけでなく、個別指導を実施する必要がある。 在学中の就労が困難な生徒もいることが課題である。	生徒の課題の把握と組織的な対応をすることで基本的な生活習慣を確立させる。	①教職員間の密な情報交換に基づいた指導を実施する。 ②SC・SSW等の外部機関と連携することで、より適切な対応を実施する。 ③アセスメント調査の利用や保護者と連携することで、生徒の基本的な生活習慣を確立させる。	①教職員間の情報共有。 ②外部機関の効果的な活用。 ③欠席・遅刻・早退の減少。外部有識者による講演の実施。	生徒の課題を把握するために、組織的に対応することができた。 ①職員会議の終わりに生徒の情報交換を行い理解を深めた。 ②SC・SSWを拠点校から派遣してもらい、生徒への適切な対応方法についてアドバイスをもらうことができた。 ③出席率 85.4%(84.8%)	B	生徒の課題を把握し、適切な指導・支援が行えるよう、引き続き校内連携・外部機関との連携を継続していく。
		就労支援を徹底させ、個に応じた進路実現能力を育成する。	①個別相談や保護者面談の実施。SST・社会体験活動等を実施することで、多様な課題を抱える生徒に対応する。 ②支援教育の方法を取り入れた指導やハローワーク、就労支援センター等と連携した取組を実施する。 ③進学・就職希望者に対する個別相談、体験発表会等を活用させる。	①個に応じた指導の実施。 ②在学中の就労実績、就労訓練、インターシップ、ボランティア活動の実施。 ③進路意欲の向上と、進路決定者の増加。	進路実現のために、個別面談や在学中の就労支援を実施することができた。 ①SSTや社会体験活動は委託業者と密に打合せを行い、個に応じた支援ができた。 ②校内実習やインターシップを実施することで就労支援ができた。 ③卒業生の体験発表はできなかったが、弁護士となった卒業生の話を聞くことで進路への意識を向上させることができた。	A	引き続き在学中の就労から進路への意識向上へつなげていく。 1人の生徒が前年度と比べて就業時間が伸びるよう努める。
3	<b>【現状】</b> 体験活動を積極的に取り入れているが、学校行事への参加率が増加しない。生徒会希望者も減少傾向にある。 PTA活動等を通じて保護者・地域との連携を図っている。 <b>【課題】</b> 生徒会を中心とした生徒が主体的に取り組むための体制づくりが必要である。 P T A活動や学校行事への保護者の参加を促進することで、学校の活動を理解してもらう。	行事に主体的に参加することで生徒の豊かな心を育む。	①花壇・菜園整備等の実施による体験活動の推進を図る。 ②生徒会を中心とした行事運営と自主的活動の実践やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、各行事ごとにアンケートを実施する。	①多くの種類の植物の栽培と生徒による自己管理。 ②生徒会行事への参加率の向上と自主的な運営の実施。	学校行事への参加により豊かな心を育むことができた。 ①環境委員会を中心にサツマイモを植え収穫することができた。 ②定時制連絡ポータルを活用し、学校行事に対する興味・関心を高めることができた。	B	学校行事自体は、定着しているため、今後は運営方法や行事の活性化に向けた方策を検討していく。
		PTA活動の周知や学校の活動の情報発信をすることで保護者や中学生に本校を理解してもらう。	①PTA だよりの定期的な発行により定時制の取組や成果をPRする。 ②ホームページを活用した情報発信を積極的に行う。 ③全職員で中学校や保護者へ、学校の活動を周知することで、学校の活動を理解してもらう。	①理事会等で意見を集約することで、内容を充実させる。 ②閲覧件数、更新状況と内容の充実。 ③中学校への訪問回数や説明会への参加状況。	保護者と連携することで本校の活動を理解してもらうことができた。 ①PTA だよりは年間4回発行し、定時制の取組や成果をPRすることができた。 ②更新回数 340回 ③11市町村教育委員会、36の中学校に情報を提供した。学校説明会参加者は8組(11組)	A	P T A活動は引き続き継続していく。 外部への情報発信については、本校の活動を理解してもらうための方策を検討していく。また、現在はH P と P T A だよりによるものがほとんどであるが、それ以外の方法、例えば町の広報誌等でも定時制の活動を周知できるよう努める。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年 2月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>教員同士の授業改善の取組は評価できるが、少人数の中での教育の中で我慢強い、生き抜く哲学をどのように育むかを考えていただきたい。          教員の若返りが見られる中、総合的な学習の時間等を通して、生徒が自ら課題を発見できるような取組をして欲しい。</p> <p>性格気質の違う個々の生徒に対してきめ細かな指導教育を行っておりその大変さには感銘しました。          効果の出そうな上位 1-2 テーマを重点的に全校(全教師)あげてやりきることによって学校全体としての効果が表れるような気がします。          定時制で学ぶ事が着実に自分を成長させ、目標、イメージに向けての階段を上り続けて居ることを自覚させる取組を引き続きお願いします</p> <p>保護者を巻き込んだ取組は評価できる。          目標を数値にする場合に昨年度との比較だけでなく、目標値を掲げ達成度を測ることも大切かと思えます。</p>	